

縁巡庵（えんじゅあん）

組み立てて解体する。瓦に新しい命を吹き込む茶室。

竹林の中に設置したとき



甲子園会館と向かい合うように設置したとき



中から明かりを灯した様子



障子越しに透けて見える瓦

0 イントロダクション サステナブルな建築への試み

この茶室は、「①甲子園会館の記憶を宿す瓦」と「②組立解体可能な仕組み」を使ってつくられています。①のように、廃材となった古い瓦を使うことで、瓦が持つ記憶を現代に受け継ぐことを目指しています。また、②のように、使い終わったあとも壊さずに別の場所で何度でも組み立て直せることで、資源のムダを減らし、長く使い続けられることを目指しています。

1 材料と施工 甲子園会館の記憶を宿す瓦

武庫川女子大学建築学部のキャンパスのシンボルである甲子園会館では、大規模改修工事の一環として屋根瓦の葺き替え工事が行われていました。今回の工事では、全てを新しい瓦に葺き替えるのではなく、新しい瓦と状態の良い竣工当時の瓦を組み合わせており、竣工当時の瓦を部分的に再利用することで、周囲の景観や経年変化した外壁との調和をはかりました。再利用が可能な竣工当時の瓦は少なく、多くの瓦は廃材となることが問題視されました。そこで本来、瓦は屋根材として用いられますが、重量のある瓦の屋根材として利用は柱材の寸法拡大につながることから、小規模な茶室への利用は適当でないとしました。そのため、本提案では瓦を積層し壁材として用いることにしました。





瓦の加工過程　瓦を持ち運び可能な形にし、かつ美しい意匠材となることを目指して検討を重ねました



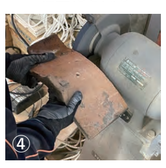
① 半分に切断することで軽量化を図る



② 木枠に瓦を収めユニット化する



③ 瓦同士は接着剤で接着することで固定



④ 瓦の断面にやすりをかける



⑤ 凹凸が目立っていたが滑らかな断面になった

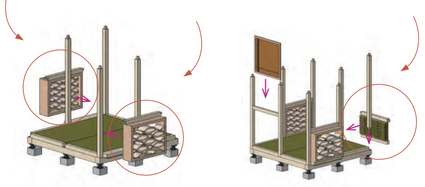


⑥ 実験光で瓦の形が浮か上がる

完成すると、、



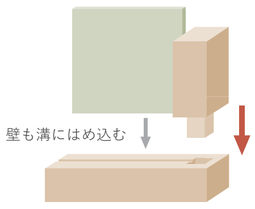
波積み瓦　魚積み瓦　平積み瓦



瓦ユニットは規格化された構成部材の一部として組み立て可

2 構造とシステム 組立解体可能な仕組み

①ほぞ接合を採用した構造体



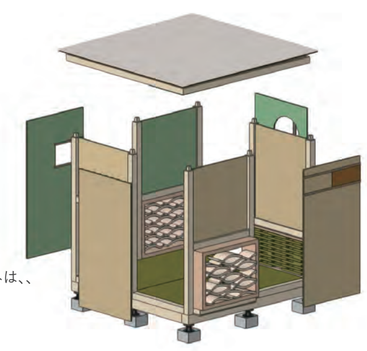
ほぞをほぞ穴にはめ込んで固定

②組み替えが可能な 4 種の壁



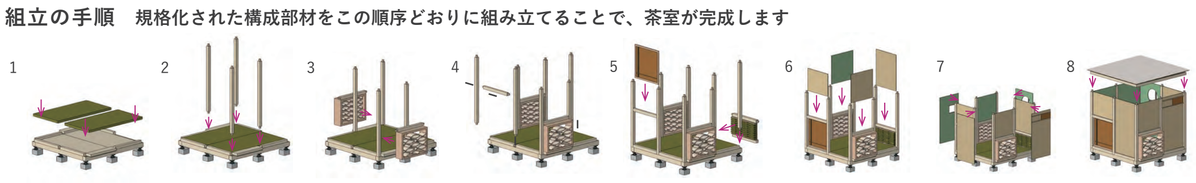
高窓壁　丸窓壁　四角窓壁　竹壁

解体の仕組みは、、



構成部材の規格化により解体が可能

組立の手順　規格化された構成部材をこの順序どおりに組み立てることで、茶室が完成します



床ユニット・畳シート　柱 4 本　瓦ユニット 2 種　柱 4 本・横材　躙り戸・平積み床　壁 4 枚　壁パーツ 4 種　屋根ユニット

3 完成像 陰影と風景を楽しむ茶室



4 将来像 茶室のこれから



学生の作品を飾る展示台として再活用することで、新しい日常の風景をつくり出します

5 制作過程 三カ月の道のり

武庫川女子大学大学院 修士 2 年
代表者：大西史乃
連絡先：2428491@mwu.jp
HP: https://arch.mukogawa-u.ac.jp/17261